

平成20年度 一般会計予算額

76億1千万円

那珂川町平成20年度一般会計予算額は、76億1,000万円となり、前年度予算に対し、1億3,000万円の増（1.7%増）となりました。この主な要因は、ケーブルテレビ高度化事業が最終年度を迎え、これに要する繰出金が増額したことによるものです。

人口の減少や高齢化の進行など、本町を取り巻く環境に厳しいものがあります。今年度の予算は、特に人口の減少に歯止めをかけるべく、総合振興計画を基本に、産業・生活・教育・文化など各分野において調和のとれた発展と21

はぐくまれ 満ちたまちづくり」を目指して

歳出 76億1,000万円

投資的経費は8.2%に

歳出については、行財政改革の本旨を念頭に一般行政経費の一層の節減に努め、財政の健全化の確保に配慮しながらも、総合振興計画の具現化に向けて事業を導入することとし、魅力ある地域社会の形成を進めるため、多様化する各種事務事業の対応を図ることとしました。特に、合併後の行財政改革4年目であり、行政評価の基準年度でもあるため各事業において、必要最小限の予算措置としました。

歳出の性質別内訳は、建設事業費などの投資的経費と人件費や物件費などの消費的経費、公債費などのその他の経費の3つに分けることができます。投資的経費は、6億2,273万円で、構成比は8.2%、消費的経費は、46億7,435万円で、構成比は61.4%となりました。また、その他の経費は、23億1,292万円で、構成比は30.4%となっています。

民生費 16億3,811万円 (21.5%)
公債費 12億1,443万円 (16.0%)
教育費 10億4,299万円 (13.7%)
総務費 10億3,397万円 (13.6%)
衛生費 7億2,836万円 (9.6%)
土木費 6億2,699万円 (8.2%)
農林水産業費 5億2,244万円 (6.9%)
消防費 4億1,214万円 (5.4%)
その他 3億9,057万円 (5.1%)

まちづくりの基本目標

- 基本目標Ⅰ 安全・快適なユニバーサルデザインのまちづくり
- 基本目標Ⅱ 笑顔あふれる元気で心あたたかなまちづくり
- 基本目標Ⅲ 人を育て未来を拓くまちづくり
- 基本目標Ⅳ 人がにぎわい活力あるまちづくり
- 基本目標Ⅴ 豊かな自然と共生するまちづくり
- 基本目標Ⅵ 改革への道

世紀にふさわしい豊かで潤いのある地域社会の実現のため、行財政改革の推進を念頭に、更に徹底した経費の節減と、より一層の財源の重点的、効率的配分に努め、予算を編成しました。

「豊かな自然と文化に やさしさと活力に

歳入 76億1,000万円

自主財源は 全体予算の 42.4%

歳入の構成については、大きく分けて自主財源（町税や使用料、手数料など町独自でまかなえるもの）と依存財源（地方交付税、国・県支出金、町の借金である町債等）の2つに分けられます。

自主財源については、町の主力財源である町税において減少するほか、使用料も減少傾向にあるため、財政調整基金、地域振興基金等の基金を充当しています。

また、依存財源においては、地方交付税は地方再生対策分、県支出金は中山間地域総合整備事業により増額となりますが、国庫支出金は減額となり、厳しい財政運営となりました。町債においては、過疎対策事業債、臨時財政対策債、合併特例債などの有利な起債を活用することとしました。

一般会計予算を財源別に見てみると、自主財源は、32億2,983万円で、構成比は42.4%となっています。自主財源の中心となる町税は、19億434万円で歳入全体の25.0%となっています。また、依存財源は43億8,017万円で、構成比は、57.6%となっています。依存財源の核となる地方交付税は、27億4,000万円で歳入全体の36.0%を占めています。

町 税 19億434万円 (25.0%)	自主財源 (42.4%)
繰 入 金 7億2,680万円 (9.6%)	
<small>使用料及び手数料 1億2,698万円 (1.7%)</small> その他の自主財源 4億7,171万円 (6.1%)	
地方交付税 27億4,000万円 (36.0%)	依存財源 (57.6%)
町 債 4億9,720万円 (6.5%)	
県支出金 4億8,859万円 (6.4%)	
<small>国庫支出金 2億798万円 (2.7%)</small> その他の依存財源 4億4,640万円 (6.0%)	